NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：シリア難民の今～メディアでは語られない現状とは
（形態：講演）

２．実施者：景平義文（(特活）難民を助ける会）

３．日　時：2015 年 7 月 6 日（月）15 時 15 分～16 時 00 分

４．場　所：日星高等学校（京都府舞鶴市）

５．参加者：学生４５名

６．概　要：
国際協力・NGO の果たす役割について概説した後、シリア難民の現状について説明した。当会が活動するトルコにおけるシリア難民は今もなお増え続けているため、そうした新しい難民に対する物資配付などの物質的支援が必要であることを説明するともに、既に数年間トルコで避難生活を送っているシリア難民に対して物質的な支援よりも、トルコ語の学習支援やシリア人同士のネットワーク作りの支援など社会的側面の支援の必要性が高いことを説明した。参加者は看護を学ぶ生徒だったため、シリア難民の医療についての質問が挙がった。

所感：
日本の高校生にとってシリア難民は遠い国の話であり、自分たちの問題として捉えることは非常に難しい話であるが、非常に熱心に耳を傾けてくれた。講義終了後には、将来国際協力に関わる仕事に就くことを志望する生徒から質問を受けた。こういう講義を通じて、生徒の関心が日本以外にも向くようになり、国際協力の仕事を将来の選択肢の一つとして考えるようになってもらいたい。
東京では、国際協力 NGO による活動報告会等は度々開催されているが、首都圏以外での開催は少ない。特に、舞鶴のような小都市での機会は非常に限られているため、各地域で講演会や報告会を開催することで、より多くの人々の国際協力への関心を高めていきたい。

写真

NGO相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：「ボラ活・大津（ボランティア活動活性化プロジェクト・大津）」
　　交流会（形態：相談対応サービス）

２．実施者：佐藤瞳（（公社）日本国際民間協力会）

３．日　時：2015年7月18日（土）10：00～16：00

４．場　所：明日都浜大津5階ふれあいプラザ大会議室

５．参加者：１１０名

６．概　要：
　ボラ活・大津交流会は、ボランティア活動の高齢化や後継者不足などの課題を受けて、滋賀県内の市民団体が集まり、新たなボランティアの募集や情報交換を目的として初めて開催された。大津市で活動する団体を中心に、国際協力や環境保全、市民イベント運営などさまざまな分野で活動する23団体が参加し、パネル展示やブース来場者、他団体との交流を行った。また、そのうち12団体が登壇し、学生や社会人、シニア世代や主婦などボランティアに関心を持つ一般来場者に向けて、活動内容やボランティア情報などを発表した。
　弊会は活動発表にて、NGO相談員制度、一般の方々が参加できるボランティア活動、参加団体が活用できるスキームなどを紹介した。また、相談ブースを設け、ボランティアに興味のある一般参加者にボランティアやインターン、イベントなどを通じた国際協力への参加を提案した。同時に、地域で活動する参加団体に、組織運営や利用可能なスキームに関するアドバイスを提供した。

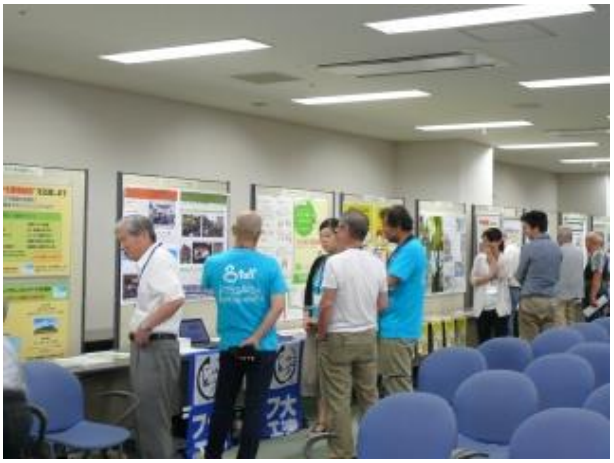
<u>所感及び効果</u>
　大津市で初めての試みということで、情報収集の場がない、組織運営や資金調達などに関してどこに相談したらいいかわからない、という悩みを持つ市民団体に向けて、NGO相談員制度を紹介し、困った時に頼れる制度として印象づけることが出来た。弊会が京都の学生や主婦を中心に街頭募金などを行い小さな団体を立ち上げ、滋賀県大津市での活動も経験し、外務省やJICAなどさまざまなスキームを活用し団体規模を拡大してきた歴史を紹介したことで、参加団体から「NGO相談員制度について初めて知ったが、身近に感じた」「今後の団体運

営のヒントが得られた」「困ったときはまず相談します」といったコメントを頂いた。

　また、本イベントでの出張サービス実施は、国際協力推進員滋賀県担当からのご紹介により実現した。会場での情報交換を通して、推進員と、大阪・兵庫・京都などと比較し、滋賀県は国際協力団体の数が少なく、資金面・人材面でも小さな団体が多いこと、一般市民の国際協力への関心がまだまだ低いこと、少子高齢化の影響など、地方が抱える国際協力推進への悩みを共有し、今後の協力可能性を相談し合うことが出来た。

＜活動風景（写真記録）＞

会場風景



活動発表

ブース出展

＜メディア掲載＞

2015 年 7 月 19 日付で、京都新聞の滋賀県版にイベントの様子が紹介された。

京都新聞　27. 7. 19

第3種郵便物認可　京

ボランティア活動 参加を

県内23団体 大津で初の集い

内容や魅力発表、勧誘

県内で活動する市民グループが集い、新たな担い手を募る「ボランティア活動活性化プロジェクト・大津」が18日、大津市の明日都浜大津で初めて開かれた。環境保全や国際協力、音楽イベントなど多彩な市民団体が「企業で環境問題に携わった人はぜひ」「仲間が増え、パソコン技術も上がる」などと熱心に勧誘した。

「ボラ活」は、少子高齢化でボランティアの担い手不足が課題となるなか、大津市のNPO法人おおつ環境フォーラムが呼びかけた。大津市を中心に23団体が参加した。

会場では、コーヒー片手に科学を語る「滋賀サイエンスカフェ」、東近江市で有機農業を研修する日本国際民間協力会（NICCO）など23団体がパネル展示をした。そのうち12団体のメンバーは順にマイクを握り、来場者に活動を発表した。

メンバー同士で活発な情報交換が行われ、ボランティア未経験者も情報収集に訪れていた。同市今堅田の会社員田崎慎さん（30）は「国際協力に興味がある。会社勤めと並行して社会貢献できたら」と話していた。

（岡本早苗）

活動の意義や魅力を紹介する市民グループのメンバーら（大津市浜大津4丁目・明日都浜大津）

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：宮古島地区初任者研修（形態：講演）

２．実施者：上原真紀（(特活）沖縄 NGO センター）

３．日　時：2015 年 7 月 28 日

４．場　所：沖縄県宮古青少年の家

７．参加者：教員１８名

８．概　要：

国際理解・異文化理解を大きなテーマとし、３つのワークショップを行った。参加者が小・中学校の教員であったため、小学生・中学生でも取り組める内容、教員が実践しやすい内容として「フォトランゲージ」、「マリアの一日」、「貿易ゲーム」を選び、ワークショップを通して異文化や世界の現状を考える時間とした。

また、NGO 相談員ブースを設け、国際理解・協力を授業の中で取り組んでもらえるよう、啓発活動を行った。

所感

小・中学生が取り組みやすい内容として上記の３つのワークショップを行ったが、どのワークショップも先生方に好評だった。特に初任者ということもあり、生徒にどう声かけをしていくかという点で、「マリアの一日」や取り組みやすいという点から「フォトランゲージ」が全ての先生から高い評価を得た。また、この２つのワークショップに関しては、早速今後学級や他の先生方へ向けて取り組みたいという声があがったことから、こちらがねらいとする「ワークショップをきっかけとして、今後教員自身が国際協力・国際理解等のワークショップを実施する」を達成できたと実感できた。

初任者研修会

NGO 相談員出張サービス実施報告書

１．企画名：第 13 回 MIA 夏期教員ワークショップ 2015 ～学校と地域でつくる国際理解教育（形態：相談対応サービス）

２．実施者：星久美子（(特活）開発教育協会）

３．日　時：2015 年 7 月 29 日（水）9：30～18：20
2015 年 7 月 30 日（木）9：30～17：00

４．場　所：スイング 11F（〒180-0022 東京都武蔵野市）

５．参加者：２日間で約１００名

６．概　要：

都内を中心とした小・中・高校教員／教員志望の学生など2日間で約100名の参加者があり、国際理解教育を学校で実践している参加者や国際協力・NGOに関心のある参加者から約15件の相談を受けた。展示ブースには、開発教育、国際理解教育の教材や、実践事例集、参考資料のサンプルを置き、多くの参加者に手に取ってもらえるよう工夫した。

相談内容は、国際理解教育、総合の時間を使った学習内容に関する質問、教材や素材、講師派遣に関する相談、生徒が参加できる国際協力活動、NGOとNPOの違いなどについての質問などがあった。関連のあるプログラムに参加して、参加者へ直接NGO相談員の説明やチラシの配布も行った。

<u>所感および効果：</u>

主に関東圏の小・中・高校の教員や教員志望の学生が集まり、ワークショップや分科会などのアクティビティを通して交流し、活発な情報と意見の交換が行われていた。研修プログラムでは、普段からMIAに集う教員自身が企画し、進行を務めていた。相談員ブースでは、学校で国際理解教育や国際協力をテーマに授業を展開している教員から、NGOの運営や活動内容に関する具体的な質問をされた。また、教師海外研修に参加し、現地での実体験を教材化して授業で扱っている教員の実践も見られ、教員自身の国際協力に対する関心が高いことが伺えた。

休憩時間やプログラムの合間を使ってブースで対応したので、時間的な制限

はあったが、メインの会場と同じ部屋での出展だったので、ほとんどの参加者に NGO 相談員の存在を知ってもらうことができた。今後も、教員が多く集まる研修会等のイベントに出展することは、効果的と思われるため、今後も積極的に取り組みたい。